

A stylized map of Iwate Prefecture, Japan, is shown in the background. The map is filled with a light pink color and has a darker pink outline. The text is overlaid on the map.

第2部

岩手のくらし

第9章 社会基盤

～防災対策や産業振興など
幸福の追求を支える社会基盤が
整っている岩手～

耐震化が進む公共建築物

■ 8割台後半の人が災害に強く安心して暮らせる県土が重要と意識

令和4年（2022年）県の施策に関する県民意識調査によると、「防災施設の整備等が進み、地震や津波、洪水、土砂災害による被害を受けにくい、安心して暮らせる県土であること」について、重要（「重要」＋「やや重要」）と考えている人の割合は、県計で87.9%となっています。広域振興圏別では、重要な割合が最も高いのが県央で89.7%、最も低いのが県北で83.7%となっています（図1）。一方、満足（「満足」＋「やや満足」）と感じている人の割合は、県計で30.2%となっており、不満（「不満」＋「やや不満」）の19.8%を上回っています。広域振興圏別では、満足の割合が最も高いのが沿岸で31.6%、最も低いのが県北で27.2%となっています（図2）。

■ 耐震化が進む公共建築物

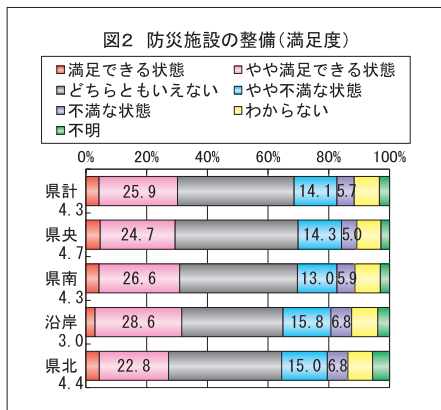
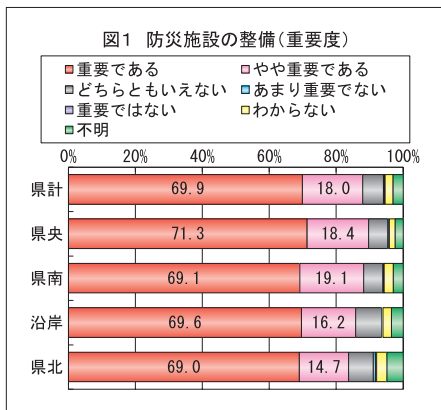
令和2年度（2020年度）の公共建築物の耐震化率は、公営住宅（注1）が100%、学校（注2）が99.2%、病院（注3）が75.8%、地方公共団体の庁舎（注4）が90.7%となっています。耐震化率の推移を用途別にみると、令和2年度と平成23年度（2011年度）を比べると、全ての公共建築物で上昇していますが、特に学校では私立、庁舎では県有及び市町村有が大幅に上昇しています（図3、4、5、6）。

- （注1）階数3以上かつ1,000㎡以上
- （注2）小中学校等：階数2以上かつ1,000㎡以上、高等学校：階数3以上かつ1,000㎡以上
- （注3）階数3以上かつ1,000㎡以上
- （注4）階数3以上かつ1,000㎡以上

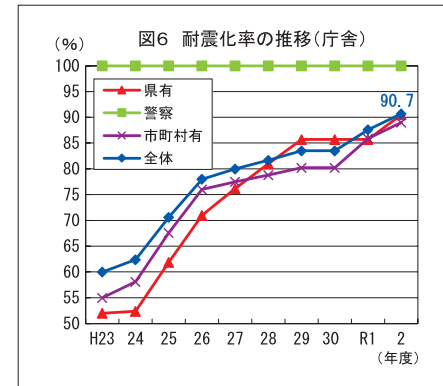
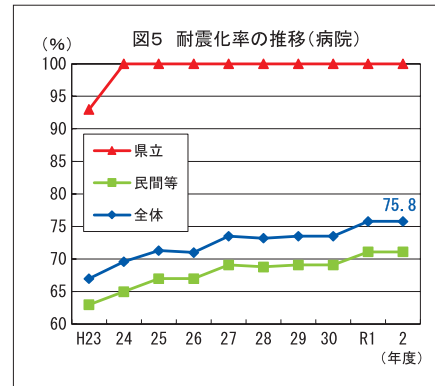
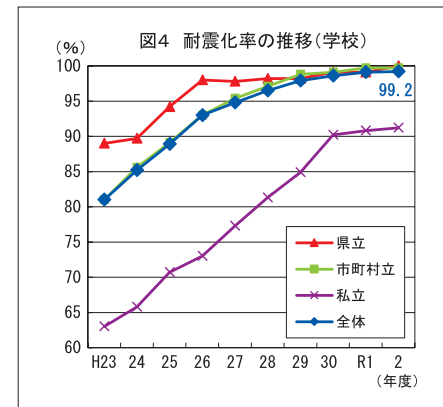
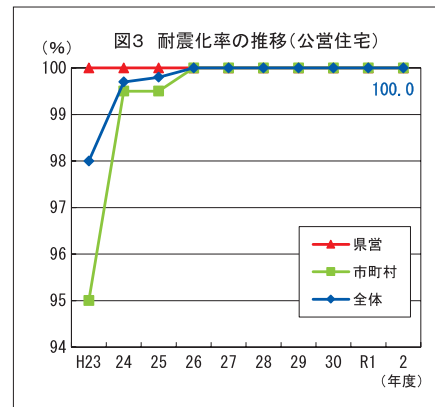
■ 緊急輸送道路延長は横ばい

本県の緊急輸送道路（注）延長は、令和2年度（2020年度）末で2,749kmとなっており、令和元年度（2019年度）末と比べると横ばいになっています。また、東北6県でも令和2年度末と令和元年度末を比べると、宮城県及び福島県を除き横ばいとなっています。緊急輸送道路を道路種別にみると、東北6県全てで一般国道の割合が最も高く、次いで都道府県道の割合が高くなっています（図7）。

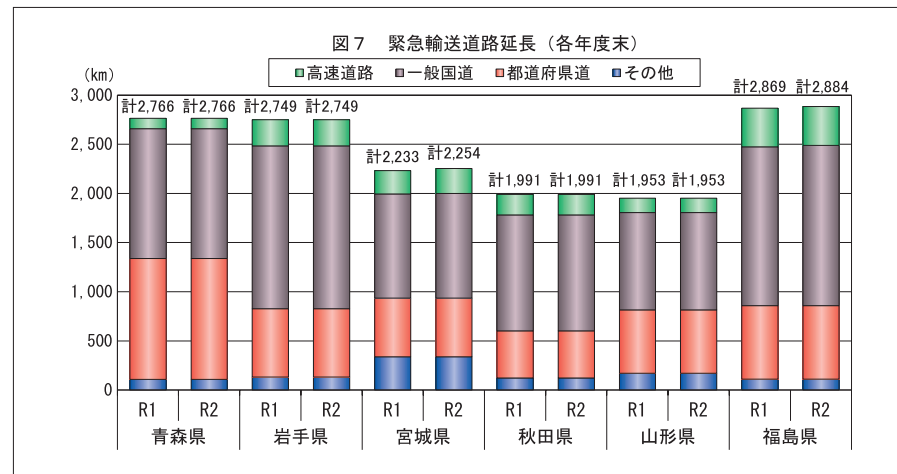
（注）災害直後から、避難・救助をはじめ、物資供給等の応急活動のために、緊急車両の通行を確保すべき重要な路線で、高速自動車国道や一般国道及びこれらを連絡する幹線的な道路



以上資料：県ふるさと振興部「令和4年県の施策に関する県民意識調査」



以上資料：県県土整備部



資料：国土交通省

3 産業や観光振興の基盤整備

いわて花巻空港の利用客は前年度から回復

■ 道路改良率は全国平均を上回る

令和2年（2020年）3月31日現在の本県の道路改良率（高速道路を除く）は、64.2%となっています。これは全国平均の62.5%を上回り、東北6県の中では4番目となっています（図1）。

■ 道路舗装率は全国最下位

令和2年（2020年）3月31日現在の本県の道路舗装率（簡易舗装を含む）は、63.8%となっており、全国最下位となっています。また東北6県をみると、山形県（83.6%）以外は全国平均を下回っています（図2）。

■ 海上貨物の輸移出入は減少

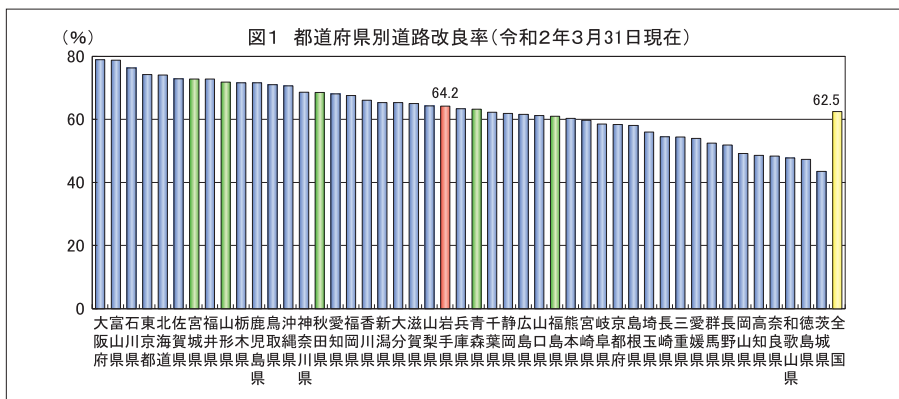
令和3年（2021年）の本県重要港湾の貨物輸移出入量は、全体で5,058千トン（前年比6.5%減）となり、前年度から減少しました。

港湾別にみると、大船渡港は2,805千トン（同5.1%減）、釜石港は1,684千トン（同8.4%増）、宮古港は161千トン（同61.5%減）、久慈港は408千トン（同15.7%減）となり、釜石港では増加しましたが、それ以外の港湾では減少しました（図3）。

■ いわて花巻空港の利用客は前年度から回復

令和3年度（2021年度）のいわて花巻空港の貨物流動（発着貨物量の合計。超過手荷物及び郵便物を含まない。）は150トンと、前年に比べ55トン増加しています。空港別にみると、大阪国際空港（伊丹）が135トンで全体の90.0%を占めており、以下、福岡空港が9トン（6.0%）、新千歳空港が6トン（4.0%）となっています（図4）。

一方、いわて花巻空港の利用客は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度（2020年度）はこれまでの増加基調から一転して大きく減少しましたが、令和3年度は約206千人（前年度比45.5%増）と回復しました（図5）。



県民との協働による維持管理は着実に定着しつつある

■ 全体の平均交通量は増加

平成27年度（2015年度）全国道路・街路交通情勢調査（道路交通センサス）によると、本県の平均交通量（注）は、前回調査の平成22年度（2010年度）から339台/24h（7.0%）増加し、5,167台/24hとなっています。

また、高速道路と一般道路を分けてみると、無料化社会実験や料金割引制度の拡充等により、高速道路では対平成22年度比で1,862台/24h（13.0%）増加しており、一般道路では同208台/24h（4.9%）の増加となっています（図1）。

（注）平均交通量：各交通量調査基本区間の断面交通量を区間延長で加重平均して算出したもの

■ 社会資本の維持管理に対する満足度は県央で高い

令和4年（2022年）県の施策に関する県民意識調査によると、「道路や橋梁、河川、公園などの社会資本の維持管理が適切に行われていること」について、重要（「重要」＋「やや重要」）と意識している人の割合は、県計で81.3%となっており、広域振興圏別では、県央で83.5%と最も高くなっています（図2）。

また、満足（「満足」＋「やや満足」）と意識している人の割合は、県計で26.5%となっており、広域振興圏別では、県央で27.6%と最も高くなっています（図3）。

■ 橋梁の維持管理は計画的に実施

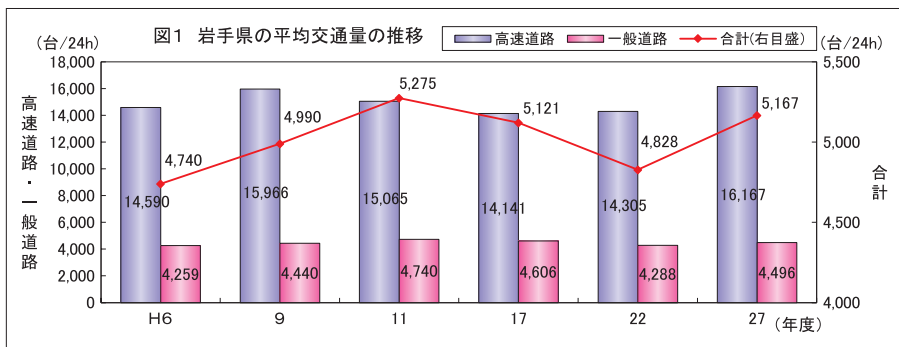
本県が管理している橋梁2,790橋については、平成26年度（2014年度）から令和3年度（2021年度）に実施した道路法に基づく点検及び健全性の診断（以下「法定点検」という。）の結果、全体の9.3%の260橋が構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態である、健全性Ⅲ（早期措置段階）と判定されました（図4）。

岩手県道路橋長寿命化修繕計画（令和3年3月）において、平成27年度（2015年度）から令和元年度（2019年度）の法定点検で健全性Ⅲと判定された212橋の令和3年度末現在の修繕等の措置着手率（措置着手・完了済み＋措置着手済み）は、全て100.0%となっており、橋梁の維持管理は計画的に実施されています（図5）。

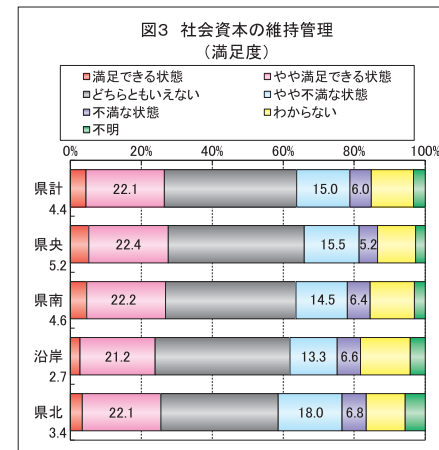
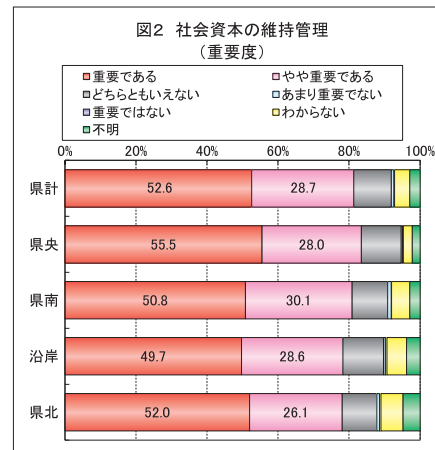
■ 県民との協働による維持管理は着実に定着しつつある

令和3年度（2021年度）の道路の維持管理における協働団体数は357団体（前年度より5団体増加）、河川・海岸の維持管理における協働団体数は116団体（前年度と同数）となり、全体では473団体（前年度より5団体増加）となりました。

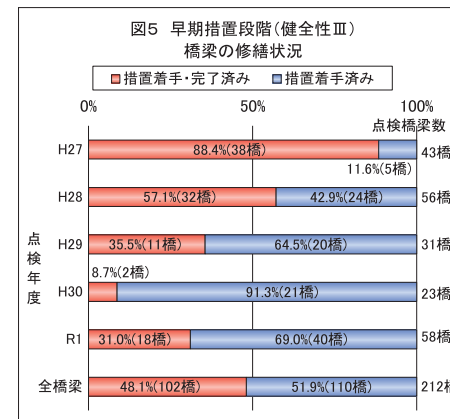
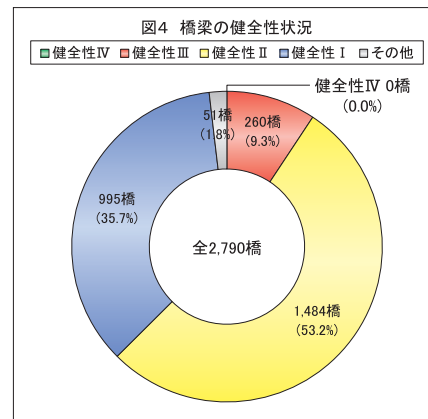
このように、社会資本の維持管理に関する協働団体数は平成25年度（2013年度）以降8年連続で増加しており、県民との協働による維持管理は着実に定着しつつあります（図6）。



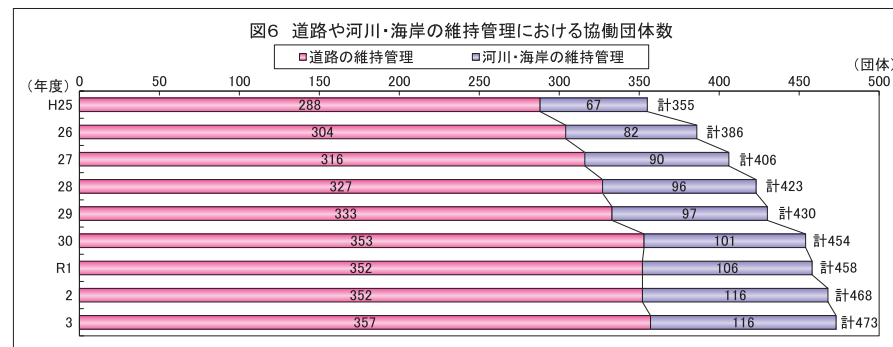
資料：国土交通省、岩手河川国道事務所「全国道路・街路交通情勢調査（道路交通センサス）」



以上資料：県ふるさと振興部「令和4年県の施策に関する県民意識調査」



※ 健全性Ⅳは「緊急措置段階」、健全性Ⅲは「早期措置段階」、健全性Ⅱは「予防保全段階」、健全性Ⅰは「健全」をさす。
※ 全橋梁の修繕状況にはH27-R1以外の点検橋梁（1橋:措置完了済）を含む。



以上資料：県県土整備部